

岩手郡医報

高橋 孝先生書



石彫／Kate Thomson

Contents

- 社団法人岩手郡医師会通常総会岩手郡医師会
会長挨拶の要旨 高橋牧之介
- 各担当部会別平成14年度事業報告と平成15年度事業計画(案)
総務担当 及川忠人理事、地域医療担当 久保谷康夫理事、医療保険担当 佐々木久夫理事、
労災担当 篠村達雅理事、産業保健担当 八角正司理事、学校保健担当 上原充郎理事、
広報担当 紺野敏昭理事、健康教育担当 栄内秀彦理事、生涯教育担当 高橋 孝理事、
勤務医部会担当 岡田行生理事、医師連盟担当 篠村達雅理事
- 平成15年度岩手郡医師会事業計画(案) 及川 忠人
- 岩手県主治医研修指導講習会の伝達講習会 高橋 孝、栄内 秀彦
- 懇親会
- 平成14年度岩手県盛岡保健所乳幼児健全発達相談システム委員会報告 上原 充郎
- 平成14年度盛岡地区生涯スポーツ推進協議会視察参加報告 上原 充郎
- 盛岡地域思春期保健連絡協議会開催報告 上原 充郎
- 病院経営への株式会社参入議論に思う 坂井 博毅
- 編集後記

2003.4. No.76
岩手郡
医師会

会長挨拶の要旨



会長

昨年は会員の皆さんや医療関係者にとって大変な年でした。4月の診療報酬の歴史上初めてのマイナス改定、10月には外総診の廃止・高齢者の定率負担

も加わり、かなりの受診抑制が起こっています。特に診療所への影響が大きく、前年同月比で実質マイナス4~5%と、改正時の約束であった2.7%に比して無視できない数字が報告されています。その上に今度の4月より社会保険本人の3割負担が実施されます。それに営利を目的とした株式会社の医療への参入、混合診療への導入など、現行の我が国が誇る皆保険制度を危うくする内容が続出し、特にアメリカからの圧力の強さが心配されています。

先生方は確定申告はお済みでしょうか如何でしたか。今回の税制そのものは従来と変わっていないが、何となく医業収入の減であろうと思います。また、一時的に資金がショートしたとの話もあります。

日本医師会が実施した「緊急医業実態調査」の結果を見ると、診療所の収支差額は個人率18.8%減、法人率では54.2%減であった。

医業経営の基本は、適性な医療保健サービスを提供して収入を安定させ、経費の合理化により支出を抑制することにある。今回の一連の調査結果は、我々会員が肌で感じていた経営不安を数字ではっきり表している。最近の医療機関の倒産は医業収入の減少によるものが殆どであるとのことだ。今こそ、実行力のある日医執行部を期待したい。さもなければ会員医療機関は次々と

倒産することになるであろう。我々はどう対処すればよいのか。「医政の強化」である。

国の医療政策に関する第一の発言権は、医を担う医師会にあるべきと思う。先の参議院選挙及び診療報酬の引き下げの経緯を顧みると、医師会の組織力強化と会員の医政への関心を高めること以外に方法はない。日医執行部は弱腰と批判する向きもあるが、これまでどうり、日医を強く支えていかなければならない。

私は会長就任以来、若手開業医の誕生と、医師会役員の若返りを熱望してまいりました。ここ数年来新規開業ブームが各地で進み宿願が現実のものと成りつつあります。医師会組織にもますます新風が吹き込まれる予兆を感じ明るい春を迎えるような感じがいたします。

本年も、会員諸兄のご指導、ご尽力を頂ながら、精一杯努力を傾注して参る所存です。会員諸兄のご多幸、ご健勝を祈念してご挨拶といたします。



岩手郡医師会 平成15年度 各部門別事業計画



総務 担当理事
及川 忠人

1. 県・市町村関係団体との連携強化：それぞれの地域の特性に配慮しながら、我々の医師会活動を行う場合には各自治体との連携がとても重要であり、引き続き連携強化と地域毎の課題に取り組んで行きたい。

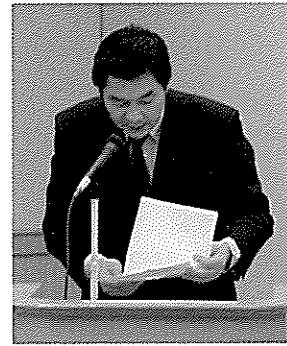
2. 医政の強化：昨今の医療情勢の厳しさの中で、医政活動を活発化することが必要と思われます。4月からの3割負担や医療への株式会社参入等の課題に決然として取り組む姿勢が求められていると思います。

3. 医療情報システムの構築：これらの構築はなされておりませんが、「たたき台をつくり」その内容・規模を検討する段階はあります。医師会の日常活動の中での守備範囲が課題となり、インターネットを岩手郡医師会の会員が利用する用件等の検討が必要であります。また岩手郡医師会のホームページに作成が急務であると思っております。会員に皆様のご意見をお寄せいただきたいと思います。

4. 災害時医療救護体制の充実：岩手山噴火対策防災訓練が大きな山を越した段階にあり、日常の災害時医療救護体制の見直しが必要であります。新しい会員の方々、また診療所および勤務医の先生方を含めた、災害時医療救護体制の大枠をつめて参りたいと存じます。

5. 会員福祉の充実：福祉の部分も総務が担当することになっておりますが、十分にその機能を果しているとはいえないのが実情です。それぞれの地域あるいは診療所・病院等での会員福祉に関する課題も多いと

存じますが、ご要望を中心に検討する必要があります。



地域医療担当理事
久保谷 康夫

第2回盛岡地区児童虐待防止地域連絡会議

日時：平成15年2月21日（金）13:00～15:00

場所：岩手県福祉総合相談センター 4階 大会議室

(1) 説明

1. 児童虐待相談の現状について
2. 児童虐待防止ハンドブックについて

(2) 協議・連絡事項

1. 盛岡児童虐待防止連絡協議会の設置について

2. 市町村在宅支援体制（引継ぎ事例）について

第2回盛岡地区児童虐待防止地域連絡会議に出席したので要旨を報告する。

○平成14年・上半期の相談受理件数は、106件であった。

○内訳は、身体的虐待は49人・46%、ネグレクトは30人・28%、心理的虐待は24人・23%、性的虐待は3人・3%であった。

○平成13年度の受理件数は173件で、平成14年度はほぼ横ばいになっている。

○全国の件数は、13年度は23,274件、12年度は、約17,700件であった。

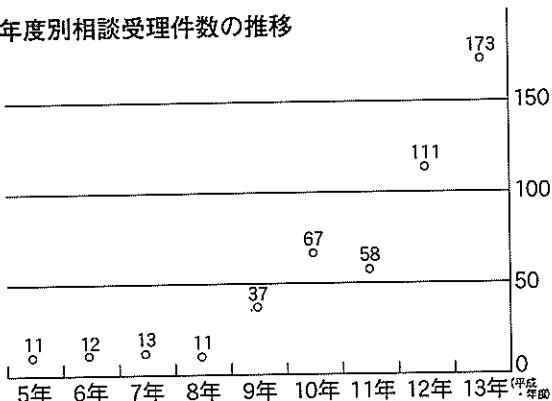
○虐待者には種々の要因が複合的に存在する。

○虐待者の経済的要因が「有り」の群は「なし」の群に比較して、2倍の虐待発生

頻度であった。

○主たる虐待者は30代の実母が半数以上を占めた。

年度別相談受理件数の推移



盛岡地域介護・保健福祉協議会

日時：平成15年2月25日（火）10:30～12:00

場所：盛岡地区合同庁舎8階大会議室

記

議事

- (1) 介護保険事業の運営状況について
- (2) 高齢者保健福祉計画および介護保険事業支援計画の推進状況について
- (3) 介護サービス量等の見込み取りまとめ結果について

盛岡地域介護・保健福祉協議会が開催されたので、議事の要点を報告する。

○平成14年末現在の、第1号および第2号被保険者は、盛岡圏域では89,302人で要介護認定者は11,533人。県合計では、各々322,786人、44,220人であった。

一方、第1号被保険者は、盛岡圏域での要介護認定者は11,064人。県合計では、42,650人であった。

○要介護認定者は要介護度1が最も多く11,707人・29%、次いで要介護度2が、7,594人・19%であった。

○介護サービスの受給者数は介護認定者の78.8%であった。

○未利用者は、合計21%で、要介護5は19%、要介護4は17%であった。要支援の25%は未利用であった。

○居宅サービスの利用割合は、要支援が47.3%で最も高く、次に要介護4が40.6%、要介護5は36.1%であった。

○区分支給限度額に対する居宅サービスの利用割合は、要支援では25%～50%未満が最も多く、要介護1～要介護5では25%未満の利用者が最も多かった。

○居宅サービスの利用が減少している理由は、一番が「他のサービスを利用しているため」は31%、次に「体調不良のため」は20%、利用料の自己負担増は3%であった。

健康いわて21プラン盛岡地域ヘルスサポートネットワーク会議

日時：平成15年3月13日（木）

午後1:30～3:00

場所：盛岡地域合同庁舎 7階7-1会議室

健康いわて21プラン盛岡保健医療圏計画等を推進するため、健康いわて21プラン盛岡地域ヘルスサポートネットワーク会議を設置する会議に出席したので要旨を報告する。

記

○会議の所掌事項は以下の通りである。

- (1) 健康いわて21プラン盛岡保健医療圏計画の推進に関すること。
- (2) 市町村健康プラン計画推進の支援に関すること。
- (3) 学校保健、職域保健、地域保健の連携による健康づくりの推進に関すること。
- (4) 分煙の推進に関すること。
- (5) その他、健康づくり、健康岩手21プランの推進に必要な事項。

○組織構成は以下の通りである。

- (1) 会議は学校保健、職域保健、地域保健等の関係団体で構成する。
- (2) 会議には会長、副会長を置く。

※会長に、盛岡市医師会理事、金子博純先生が、副会長に岩手県薬剤会盛岡支部長の前東憲子氏が選出された。

協議事項：以下の事項について、協議・報

告があった。

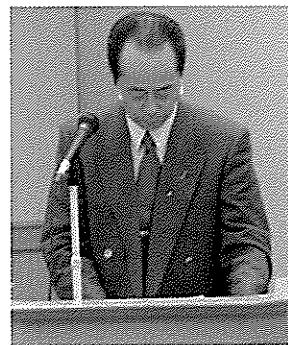
(1) 「健康いわて21プラン」盛岡保健医療圈計画の推進状況について

※圏域でとくに取り組みたい領域

県のプランの11領域中、生活習慣因子として重要でかつ幅広い領域に影響を与える因子として「栄養」、「喫煙」、「口腔保健」「および「こころ」の4領域を選定して、当面この領域に重点的に取り組む。

(2) 関係団体の取り組みについて

(3) 管内市町村計画の策定状況について



学校医部会報告

上原 充郎

1. 第2回岩手県
医師会学校医部会
幹事会開催報告

上記幹事会が別記1の通り開催されました。その中

で平成15年度学校保健事業計画が別記2の通り発表されました。この席上岩手県教育委員会と岩手県医師会との懇談会(平成14年12月18日開催)において、学校検診が場合によっては土曜日に(特に耳鼻科、眼科)実施されることが話し合われ、各自治体の教育委員会から学校に通達があるかも知れません。ということが報告されました。

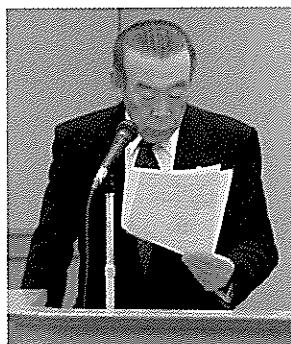
2. 第19回岩手県学校保健・学校医大会が別記プログラムの通り、一般演題、総会、シンポジウム、特別講演がフロアからの発言も活発に、年々参加者が増加し開催されました。盛岡市医師会の眼科医部会より、小学校の眼科検診時に色覚検査の必要性が提案されました。以上報告いたします。

労災担当

篠村 達雅

各労災指定医療機関に通知が届いていると思います。自賠責保険診療費算定基準の取扱いが変わります。再診療、外来管理加算及びリハビリテーション料の算定において過減制または算定単位の制限を発症の日から6ヶ月間は適用しない。

平成15年2月診療分より適用される。



産業医部会

八角 正司

平成14年度の岩手郡医師会主催認定産業医実地研修会が玉山村好摩のケアホームやすみにて実施された。

参加者は他郡医師会会員も含めて33名だった。平成15年度も秋に今年同様実施する予定です。

平成14年度現在、認定産業医師会605名、岩手郡医師会40名となっております。将来、従業員数30名以上の企業には産業医契約が義務付けられることが予想されます。

是非、未認定の先生方は産業医資格を取得されるようおすすめします。

別記1

第2回岩手県医師会学校医部会幹事会

日時：平成15年1月19日(日) 11:50～13:00

場所：岩手県医師会館3階 中会議室

次 第

1. 開 会

2. 会長挨拶

3. 報 告

(1) 平成14年度活動報告について

(2) 第14回東北学校保健・学校医大会について

(3) 第33回全国学校保健・学校医大会について

(4) 岩手県教育委員会との懇談会について

(5) その他

4. 協 議

- (1) 平成15年度学校医部会事業計画(案)
について
- (2) 平成15年度学校医部会予算(案)
について
- (3) 平成14年度学校医部会総会議事につ
いて
- (4) その他

5. 閉会

別記2

平成15年度 学校保健事業計画(案)

- (1) 岩手県学校保健・学校医大会の開催
- (2) 児童生徒の心の健康への取り組み
- (3) 思春期保健への取り組み
- (4) 小児期における生活習慣予防対策
- (5) 学校保健委員会活動の推進
- (6) 幼稚園・保育園医の組織化
- (7) 学校保健関係団体との連携
- (8) 母子保健との連携強化

プログラム

10:00～10:10

開会の辞

岩手県医師会学校保健担当理事

宍戸 凰悦

挨拶

岩手県医師会会长 石川 育成

祝辞

岩手県教育委員会教育長 五十嵐 正

10:10～11:50

一般演題

10:10～11:30

I 小児生活習慣病

座長 岩手県医師会学校医部会

小児生活習慣病対策委員会委員

寺井 泰彦

1. 室根村における小児の肥満の現状に
ついて

東磐井郡医師会・室根村国保診療所

大谷 寧子

2. 生涯を通じて健康な生活を送るため
に賢明な行動選択ができる児童・生徒の

育成 —「知識」から「行動」につながる
喫煙防止教育を通して—

紫波町立赤沢小学校(用語教諭部会)

関 あやの 他

10:30～10:50

II 思春期

座長 岩手県医師会常任理事

斎藤 恵子

3. ある虐待の1例—学校、病院、児童
相談所とのかかわり

気仙医師会・岩手県大船渡病院精神科

氏家 憲一

4. 宮古市学校保健会性教育5年間の歩み
宮古市学校保健会 松井端 けい子 他

10:50～11:10

III 眼科

座長 岩手県医師会学校医学部副部会長

小林 秀樹

5. 色覚健診の現状と今後の動向

盛岡市医師会・松田眼科クリニック院長
松田 恭一

6. 学校関係者の目の知識調査

水沢医師会・鈴木眼科吉小路院長

鈴木 武敏

11:10～11:30

IV 耳鼻咽喉科

座長 岩手県医師会学校医部副部会長

黒澤 吏

7. 健診異常指摘者についての検討

紫波郡医師会・南耳鼻咽喉科クリニック
院長 南 吉昇

8. 学童の皮膚・外耳及びアレルギー性
鼻炎の経年変化(第一報)

水沢医師会・千葉耳鼻咽喉科医院院長
千葉 和夫 他

11:30～11:50

V その他

座長 岩手県医師会学校医部会幹事

小野寺 正信

9. 小学校統廃合に関する意識調査

釜石医師会・釜石学校保健会

岩井 利男

10. 溶連菌感染症に対するセフェム系抗

生財投与の試み
花巻市医師会・はじめこども

クリニック院長 高橋 肇

11:50~13:00

休憩(昼食)

幹事会(3階中会議室)

13:00~13:30

総会

議長 岩手県医師会学校医部会部会長
鷹脣 研一

13:30~15:00

シンポジウム

テーマ『性教育、いかにあるべきかを考える』

座長 岩手県医師会学校医部会
副部会長 森田 友明

シンポジスト

1. 小学生における性教育の実際

岩手県学校保健会擁護教諭部会

中野 百子

2. 中学生への性教育

小児科医 白井 由紀子

3. 母として性教育に望むこと

社団法人岩手県PTA連合会

藤原 由美子

4. 性の実態からみる早期からの性教育の必要性

産婦人科医 秋元 義弘

5. 子どもの発達と性

精神科 山家 均

15:00~16:00

特別講演

座長 岩手県医師会会长 石川 育成

『この国の未来を奪うもの

—10代に蔓延する「性的リベラリズム」とその社会的インパクトー』

ロマリンダクリニック院長

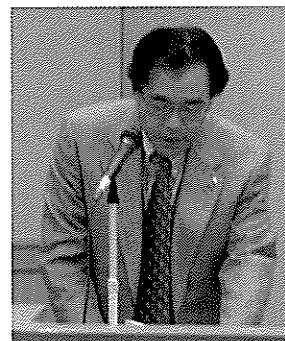
富永 国比古先生

16:00

閉会の辞

岩手県医師会学校保健担当理事

小野寺 正信



広報 平成15年度活動計画

紺野 敏昭

1. 岩手郡医報

14年度は、原稿が思う様に集まらず2回／年度とふるいませんでしたが、15年度は今回の総会号を始めとし5回／年度程度は発行したいと思っています。(原稿写真等、会員の先生方の御協力をお願いします)

2. いわて医報

14年度は、郡医師会の先生方に多数御協力頂きましてありがとうございました。15年度もいわて医報より岩手郡への原稿等の依頼がありましたなら、高橋会長と検討の上、会員の先生方にお願いしたいと思っております。その際は、御協力のほど宜しくお願いいたします。

広報 平成14年度活動報告書

1. 岩手郡医報

第74号 8月

第75号 12月

2. いわて医報

2002年5月号 〈そくとうよう〉

小山 寛 先生

2002年6月号 〈一筆啓上〉

室生寺と御所湖(零石)

柄内 秀彦 先生

2002年7月号 〈重要記事〉

第26回MARS総会を終えて

及川 忠人 先生

2002年8月号 〈隨想〉

機知のなかのナイチングール

小山 寛 先生

2002年10月号 〈表紙〉

長谷川 貫一 先生

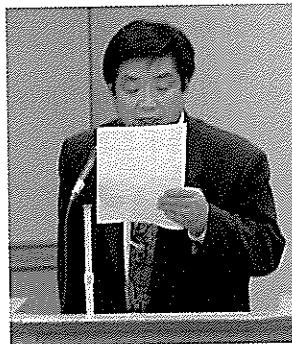
2002年12月号 〈表紙〉

三善マモル様(三善先生の奥様)

2003年3月号 〈ぜんとうよう〉

公衆電話

高橋 孝 先生



健康教育
柄内 秀彦
町村民健康講座
-平成14年度
活動報告-

平成14年度の健康講座は、安代町と玉山村とにて開催いたしました。

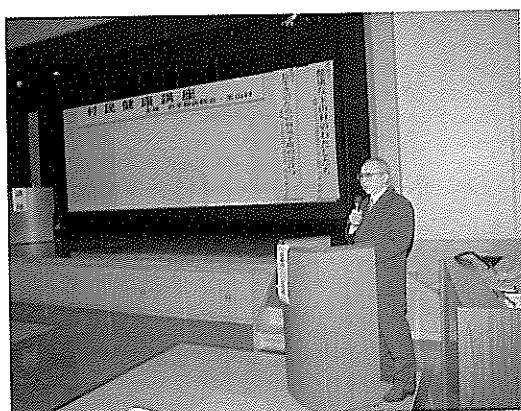
安代町での講座は、14年11月7日安代町役場内の健康増進センターを会場とし、180名ほどの参加者を得、“介護予防”と題し岩手理学療法士会会长の佐藤浩也講師に、また、“生活習慣病”と題して当副会長の高橋孝先生にそれぞれ講演をいただきました。

玉山村での講座は、15年2月18日玉山村文化会館を会場とし、150名ほどの参加者を得、“長生きのための病気予防のひけつ”と題し当副会長の西島康之先生に、また、“健康な玉山村のわたしたち”と題し岩手大学保健センター教授立身政信先生にそれぞれ講演をいただきました。

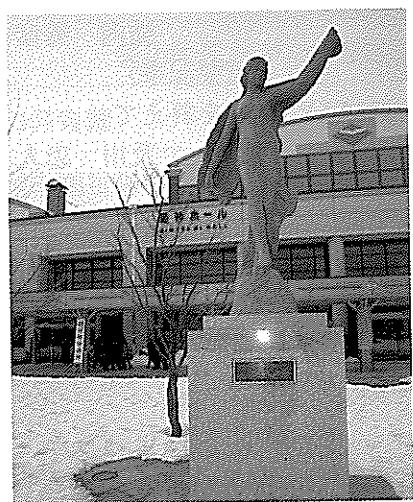
二講座ともに地元医師会の先生方のご協力を得盛会裏に終わることが出来ましたことを、この場をお借り致しまして御礼申し上げます。



会場全景



座長：講師紹介 高橋副会長



H14村民健康講座会場 玉山文化会館



高橋会長挨拶



工藤村長 祝辞



座長：講師紹介 八角理事



講演1 西嶋副会長

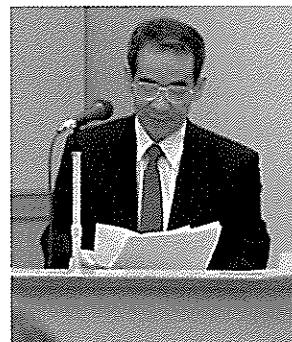


講演2 立身教授

町村民健康講座－平成15年度活動計画－

岩手郡町村民健康講座は、岩手郡8ヶ町村の中から年2ヶ町村を選び、健康・医療・介護等に関する啓蒙活動と町民へのサービスの一貫として行っております。

15年度は、雫石町と、滝沢村の2会場にて例年どおり冬期間に行う予定です。演題・講師等は未定ですが、町村民の身近な話題をテーマにと思っております。その際は地元医師会員の先生方の御協力をお願い致します。



14年度勤務医部会の活動状況

岡田 行生
第90回勤務医部会幹事会 14.5.18

部会長、副部会長選挙
樋口、櫻本、及川、佐藤が選出

された。

第91回勤務医部会幹事会ならびに釜石医師会勤務医部会会員懇談会 14.9.7

地域における病院の今後のあり方について地域の病院から発表が行われた。

第92回勤務医部会幹事会並びに県立中央病院勤務医部会会員懇談会 15.1.25

救急医療、病診連携室、在宅緩和医療についてそれぞれ中央病院、盛岡医師会から発表が行われた。

第93回勤務医部会幹事会勤務医部会総会

15.3.8

講演 診療記録と医療の質向上
新臨床研修への対応についての講演が行われた。

日本医師連盟若手会員研修会報告

篠村 達雅

・平成15年1月26日(日)、日本医師会館において開催された。50才以上が大半であったが、全国より465名(衆議院小選挙区300より、各2名)の参加があった。

・坪井栄孝会長は「若手会員の意見を直接聞き、吸収し理解したい。今回は講演が主体であるが、次回より討論の場としたい。年4回の開催予定。

支持政党は自民党とするが、各都道府県医師連盟の特性を十分に理解し自主性を排除しない。支持する党議員の医療政策全般についての考え方を把握し、日本医師会の医療政策との整合性をも検証し、評価を行い支持の是非を判断してほしい」と挨拶された。

・宮崎秀樹、武見敬三、両参議院議員の挨拶

・伊吹文明衆議院議員(自民党)の講演、「日本医師連盟の政治活動について」医療は公的セクターであって儲け仕事ではない。

医療政策を決めるのは政治の場であり、公的セクターであるため、政府政権与党との調整は避けられない。医師連盟はもっと力を結集する必要がある。医師から頂いた推薦人名簿は選挙で電話した場合、一番反応が悪い。医師一人一人が深刻に医政を考える必要がある。

・老人保険制度以外は順調である。老人保険のための財源が問題。そのため消費税の引き上げは避けられない。その結果、一般医療保険料はさがるのだが、小泉総理ははつきり言わない。

・最後に坪井会長との活発な質疑応答があり、このような会が都道府県、郡医師会単位でも出来ることが理想とのことであった。

社団法人 岩手郡医師会 平成15年度事業計画(案)

新世紀のはじまりと期待した21世紀は、「不安と混乱」の時代に突入した感が強く、国内の経済不況・国家財政の悪化は留まるところのない状況を示している。

「聖域なき改革」旗印の医療制度改革下での、財政優先の医療費抑制を目的とする医療保険制度の改悪である。高齢者医療制度の見直しと国民皆保険制度の堅持を推し進めなければならない。

岩手郡医師会は地域住民への適切な医療提供を基に、少子高齢化社会の保健・医療・福祉の連携実現のかめの努力をしなければならない。

次の重点項目を揚げてその実践に努めたい。

1. 医の倫理と生命倫理の向上
2. 県医師会事業への全面協力
3. 医政の強化
4. 地域医療の強化
5. 生涯教育の実践
6. 会員福祉の充実
7. 医業経営の安定化
8. 保健医療の適性化
9. 地域住民への健康啓蒙教育
10. 関連諸団体との連携



岩手県主治医研修指導者講習会

日時：平成15年3月9日（日）

場所：岩手県医師会館3階 視聴覚室

担当：高橋 孝 栃内秀彦

次 第

- (1) 「主治医意見書の新たな位置づけ」
- (2) 「要介護認定の改定等について」
- (3) 「主治医意見書記入マニュアル
について」

○ 県医師会理事長沢茂氏の司会で石川会長の挨拶、県から長寿社会課及川、工藤の両氏。県医師会常任理事直島竹夫氏の伝達があつた。

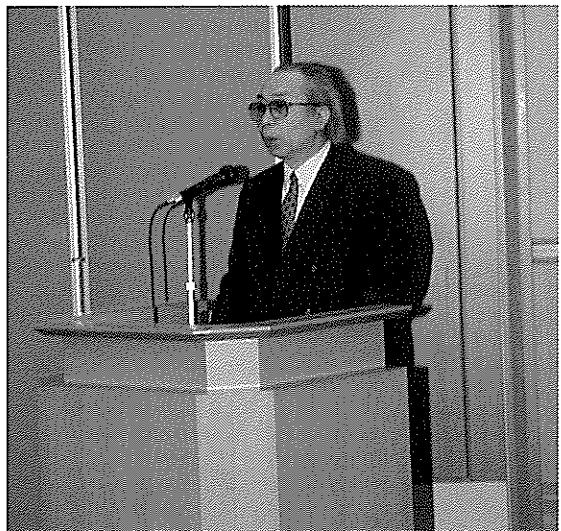
資料として

- [1] 平成14年度、岩手県主治医研修資料
- [2] 日医総研発行の
「主治医意見書記入マニュアル」
- [3] 同（概要版）

○ 資料は伝達講修時に既にお渡し済みです。

○ 高橋牧之介会長は岩手県医師会より同席しました。岩手郡から高橋孝、栃内秀彦が出席しました。

○ マニュアルをお読み戴ければ分かりますが、介護保険は給付と負担の公平、平等制が強く言われております。従いまして介護認定が公平でなければならぬのです。特に指摘されて参りましたのは所謂動ける痴呆について介護度が低いと言われてきました。この点は日本医師会総合研究機構の努力などにより、より正確に認定されるようになつたと強調されていました。さて主治医意見書ですが、介護保険は法律により申請より起算して30日以内に介護度を申請者に通知することになっております。遅れると却下されたこととなり、申請者より意義の申し立てともなります。介護認定は主治医意見書が無ければ出来ませんのでこの点よくご留意ください。意見書は介護の面を



考えて書いて戴くことになります。意見書はまた申請者本人はもとより本人以外の人も、介護サービス計画作成に利用することに「同意」すると目にふれることをお考えのうえ病名、封筒の巣封に注意ください。

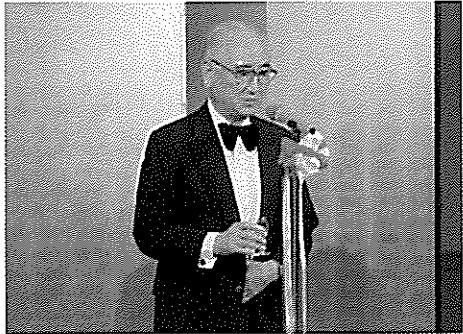
動ける痴呆について、介護度が反映されるシステムになりましたが、これも意見書の正確さが要求されております。即ち問題行動の欄については、痴呆の尺度、改訂長谷川式簡易知能評価スケール、CPS（認知活動尺度）などをを利用して、良く申請者を診て、介護者から聞いて書いて下さい。4.(1) 現在、発生の可能性がたかい病態とその対処方法の欄では可能性の他に現在発生している病態、特に失禁については二年目より医師の証明がなくても、意見書によって「おむつ代の医療費控除」がうけられますのでとくにご注意してお書きください、特記事項欄には各欄に書けなかった、介護の面から見て大切なことを書いて下さい。他にもあります、伝達講習も致しましたので更にご質問がありましたらご一報下さい。

（文責 高橋）

懇親会



高橋会長挨拶



乾杯の御発声の佐藤誠先生



カラオケ 久保谷先生

**平成14年度岩手県盛岡保健所
乳幼児健全発達相談指導
システム委員会開催報告**

上原 充郎

次の次第の通り(別記1)開催されました。
この設置要項は別記2のとおりです。参加者
者は別記3のとおりです。

別記1

平成14年度岩手県盛岡保健所乳幼児
健全発達相談指導システム委員会
平成15年3月14日(金)
13:00~14:30
岩手県盛岡保健所5階研修室

次第

1. 開会
2. あいさつ
3. 委員紹介
4. 盛岡保健所乳幼児健全発達相談指導システム委員会委員長の選出及び副委員長の指名について
5. 協議
 - (1) 平成14年度盛岡保健所乳幼児健全発達相談指導事業の実施状況について
 - (2) 情報交換
「管内における乳幼児健診等事後指導、発達相談等の課題について」
 - (3) 平成15年度盛岡保健所乳幼児健全発達相談指導事業計画(案)について
6. その他
7. 閉会

別記2

岩手県盛岡保健所乳幼児健全発達相談
指導システム委員会設置要項

(設置)

第1 精神的、身体的な発達面で問題があると思われる乳幼児に対して、健全な発達・発育を支援するとともに、地域における支援体制の確立を図るため

に、岩手県盛岡保健所乳幼児健全発達相談指導システム委員会(以下「委員会」という。)を設置する。

(所掌事項)

第2 委員会の所掌事項は、次のとおりとする。

- (1) 乳幼児健全発達相談指導システムのあり方に関すること。
- (2) その他の必要な事項。

(組織)

第3 委員会は、別表に掲げる委員をもって組織する。

2. 委員の任期は、2年とする。ただし、欠員が生じた場合における後任者の任期は前任者の残任期間とする。

(委員長及び副委員長)

第4 委員会に委員長及び副委員長を置く。

2. 委員長は、委員の互選をもって充てる。

3. 副委員長は、委員の中から委員長が指名する。

4. 委員長は委員を総括し、会議の議長となる。

5. 副委員長は委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代行する。

(委員会)

第5 委員会は、必要に応じ保健所長が招集する。

(意見の聴取)

第6 委員長は、必要と認めるときは委員以外の出席を認め、その意見を聞くことができる。

(庶務)

第7 委員会の庶務は、岩手県盛岡保健所において処理する。

付則

1. この要綱は、平成11年1月4日から施行する。
2. 第3の規定に関わらず、初回の委員の任期は、平成12年3月31日とする。
3. 平成14年3月5日一部改正。

別記3

岩手県盛岡保健所乳幼児健全発達相談指導システム委員会委員名簿

(H14.4.1 ~ H16.3.31)

所 属	職 名	氏 名	
盛岡市医師会	理事	西島 浅香	
岩手郡医師会	理事	上原 充郎	
紫波郡医師会	理事	徳永 三郎	
盛岡市歯科医師会	理事	大黒 英貴	
都南の園	園長	田澤 瞳夫	
市町村	盛岡市保健センター	主任保健師	佐々木恭子
	零石町保健センター	副主幹	朝賀 裕子
	葛巻町健康福祉課	保健師長	下屋敷昌子
	岩手町健康福祉課	保健師長	仁昌寺幸子
	西根町福祉課	主任保健師	藤村 裕子
	安代町保健福祉課	保健師	小林 恵美
	滝沢村健康推進課	主任保健師	浅野英利子
	松尾村保健福祉課	保健師	遠藤 千歳
	玉山村健康福祉課	保健推進係長	藤澤 昌子
	紫波町長寿健康課	副主査	森川 一枝
徳田保育園	園長	佐々木誠子	
盛岡市福祉事務所（児童福祉課）	保育係長	小野寺弘純	
岩手県教育事務所	主任指導主事	安達 祐司	
岩手県福祉総合相談センター	上席心理判定員兼判定指導係長	土屋 文彦	
盛岡地方振興局	保健福祉企画係長	藤澤 徹	
	福祉課長	菅野 千又	

平成14年度盛岡地区生涯スポーツ 推進協議会研修視察参加報告 上原 充郎

上記視察が別記1の通り実施されました。視察地は金ヶ崎町で、この町では「生涯教育町の宣伝」以来、「いつでもどこでもだれでも」をスローガンに活動してきた先進地なので別記2の通り団体・委員会が視察して参りました。現地では中央生涯教育センター所長千葉実氏、中央生涯教育センター・文化体育館主幹菊池幸一氏が組織の立ち上げ、クラブの組織がため、クラブ活動の定着化と自主的活動について約1時間にわたり説明をしてくださいました。

別記1

平成14年度盛岡地区生涯スポーツ

- 1 目的 推進協議会視察研修実施要項
県内の生涯スポーツに係る先進的な取り組みをしている県内地区の実践について視察研修することにより、今後の事務所・市町村事業の充実に資する。

2 期日 平成14年12月5日(木) 13:00~16:30

3 研修先及び内容

金ヶ崎町文化体育馆

〒029-4503 金ヶ崎町西根南羽沢33

TEL 0197-44-3010

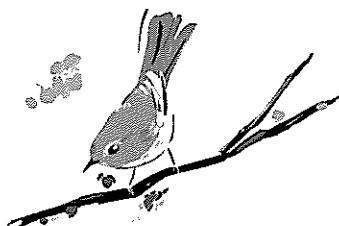
「金ヶ崎町における総合型地域スポーツクラブの実践について」

4 視察者

盛岡地区生涯スポーツ推進協議会構成員
管内市町村教育委員会生涯スポーツ担当者
管内市町村体育指導委員等

6 目程

- 13:00 盛岡市アイスアリーナ出発
 (貸しきりバス)
 14:00 金ヶ崎町文化体育館着
 14:30 研修(講義・質疑)
 15:30 金ヶ崎町文化体育館発
 16:30 盛岡市アイスアリーナ着



みんなの いわて を
医 協

医用印刷物・医療機器・医療事務機器・衛生材料その他・保険事業・医療廃棄物処理事業(收集から各種報告書作成まで)・福利厚生事業・労働保険事務代行事業・高速道路割引カード・その他各種

TEL. 019-626-3880

購買専用
フリーダイヤル 0120-054-222

FAX: 019-626-3883

URL <http://www.ginga.or.jp/isikyo>
E-mail isikyo@rose.ocn.ne.jp



別記2 平成14年度盛岡地区生涯スポーツ推進協議会構成団体・委員

	団体及び行政機関名	代表者名	委 員		備考
			団体における役職	委員名	
体力づくり	盛岡市体育協会	下田 靖司	理事長	大森 阜	
	岩手郡体育協会	田沼 征彦	理事長	高橋 三郎	
	盛岡市体育指導委員協議会	伊東 まさ	会 長	伊東 まさ	
	岩手地区体育指導委員協議会	八幡 兼矢	会 長	八幡 兼矢	
	紫波郡体育指導委員協議会	巻藤 一吉	会 長	巻藤 一吉	
健康づくり	盛岡市医師会	臼井 康雄	理 事	鈴木 正弘	
	岩手郡医師会	高橋牧之介	理 事	上原 充郎	
	紫波郡医師会	玉田 清治	副会長	足澤 輝夫	
	盛岡保健所	小野寺 勲	次 長	工藤 竹昭	監事
	盛岡地方振興局保健福祉環境部	西川 龍成	副主幹兼福祉係長	阿部 幸夫	監事
社会体育・学校体育	盛岡教育事務所管内社会教育推進協議会	石川 梯司	理 事	山本 光男	副会長
	盛岡市小学校長会	伊藤 典夫	小体連副会長	米澤 義典	
	盛岡市中学校長会	八重樫 武	市中体連会長	下田 淳	
	岩手地区校長会	高橋 靖宏	副会長	大江 邦男	
	紫波郡校長会	志村 正義	会 長	志村 正義	
市町村教育委員会	盛岡市教育委員会	石川 梯司	スポーツ振興係長	高橋 元一	理事
	零石町教育委員会	矢羽々昭夫	生涯スポーツ係長	高橋 幸一	理事
	葛巻町教育委員会	藤岡 一雄	副主幹兼生涯 スポーツ係長	川戸 清爽	理事
	岩手町教育委員会	佐々木恵治	スポーツ振興係長	佐藤 秀樹	理事
	西根町教育委員会	内村 宣夫	社会体育係長	宮崎 敏彦	理事
	安代町教育委員会	米川 次郎	社会体育係長	三浦 剛喜	理事
	滝沢村教育委員会	西村 哲郎	主任主査	中村 尚志	理事
	松尾村教育委員会	遠藤 雄三	副主幹兼生涯 体育係長	伊藤 時彦	理事
	玉山村教育委員会	山本 光男	社会体育係長	伊五澤 努	理事
	紫波町教育委員会	川村 秀彦	課長補佐	藤尾 天右	理事
事務局	盛岡教育事務所	須藤 信	体育振興係長	川村 勝弘	理事
		盛川 通正	所 長	盛川 通正	会長
			指導主事兼 保健体育主事	田山 英治	理事
			社会教育主事 (スポーツ担当)	林 一広	理事

盛岡地域思春期保健連絡協議会開催報告

上原 充郎

上記連絡協議会が別記 1 のとおり開催されました。開催要項は別記 2 のとおりです。参加者は別記 3 のとおりです。

会長には盛岡市医師会の西島浅香先生（小児科）、副会長には岩手県薬剤師会盛岡支部長の前東憲子氏が選出されました。協議の主な点は思春期児童の性に関すること一性のみだれ、エイズを含む性感染症への問題を取り組みであった。

以上御報告いたします。

別記1

盛岡地域思春期保健連絡会議

日時 平成15年3月14日（金）15:00～16:30

場所 岩手県盛岡保健所 5階研修室

次第

1 あいさつ

　　岩手県盛岡保健所長 小野寺 熱

2 出席者紹介

3 盛岡地域思春期保健連絡会会长及び副会長の専任

4 協議

　　(1) 思春期保健の現状について

　　(2) 平成14年度盛岡保健所思春期保健事業実施状況について

　　(3) 各関係機関の思春期保健対策の取組みについて

　　(4) 平成15年度盛岡保健所思春期保健事業計画について

　　(5) その他

別記2

盛岡地域思春期保健連絡会議設置要領

(趣旨)

第1 思春期の健康と性の問題と思春期の心の問題は深刻化し社会問題化していることから、保健、医療、福祉、教育等の関係機関・団体と連携しながら、思春期保健対策の強化と健康教育の推進を図り、持つて健

全な子どもの育成に資することを目的に「盛岡地域思春期保健連絡会議」（以下「会議」という。）を設置する。

(所掌事項)

第2 会議の所掌事項は、次のとおりとする。

(1) 思春期保健対策にかかる各関係機関・団体の連絡調整に関すること。

(2) 各関係機関・団体の思春期保健事業等に係る情報交換に関すること。

(3) 思春期保健対策や相談体制の整備に関すること。

(4) 思春期保健に関する正しい知識の普及に関すること。

(5) 思春期保健相談員の育成、資質の向上に関すること。

(6) その他、連絡会議の目的を達成するために必要な事項に関すること。

(構成)

第3 会議は、会長、副会長及び別表に掲げる機関（団体）をもって構成する。

2. 会長、副会長は会議の構成メンバーの中から互選とする。

(任務)

第4 会長は会議を代表し、その任務を総括する。

2. 副会長は、会長を補佐し、会長に事故ある時は、その職務を代理する。

(会議)

第5 会議は、必要に応じて会長が招集する。

2. 会議の座長は、会長とする。

(意見の聴取)

第6 会長が必要と認める時は、会員以外の出席を求め、その意見を聞くことができる。

(庶務)

第7 会議の庶務は、岩手県盛岡保健所において処理する。

付則

この要領は、平成6年10月3日から施行する。

一部改正 平成13年11月18日

別記3 平成14年度盛岡地域思春期保健連絡会議

平成15年3月14日

所 属	職 名	氏 名	備考
1 盛岡市医師会	理事	西島 浅香	
2 紫波郡医師会		欠席	
3 岩手郡医師会	理事	上原 充郎	
4 もりおかこども病院	心理療法士	坂川 樹美子	
5 岩手県薬剤師会盛岡支部	支部長	前東憲子	
6 盛岡市保健センター	主任保健師	佐々木 恒子	
7 雪石町保健センター	副主幹	朝賀 裕子	
8 葛巻町健康福祉課	保健師	米澤 慎子	
9 岩手県健康福祉課	主任保健師	鈴木 智子	
10 西根町福祉課		欠席	
11 滝沢村健康推進課	主任保健師	浅野 英利子	
12 松尾村保健福祉課	保健師	遠藤 千歳	
13 玉山村健康福祉課	健康増進係長	藤沢 昌子	
14 紫波町長寿健康課		欠席	
15 矢巾町生きがい推進課	副主幹	橋本 信子	
16 安代町保健福祉課	保健師	小林 恵美	
17 盛岡市学校保健会	養護教諭	矢羽々しづ子	東松園小学校
18 紫波町学校保健会	養護教諭	熊谷 郁子	佐比内小学校
19 矢巾町学校保健会	事務局	岩井 淳子	煙山小学校
20 岩手地区学校保健会		欠席	事務局:滝沢第二小
21 岩手県高等学校教育研究会学校保健部会盛岡支部		欠席	事務局:不來稿
22 盛岡市PTA連絡協議会	理事	志村 麻里子	
23 盛岡市少年センター	専任補導員	上川 ナ工	
24 盛岡教育事務所	主任社会教育主事	佐々木 三夫	
25 盛岡教育事務所	指導主事兼保健体育主事	田山 英治	
26 岩手県警察本部	少年サポートセンター主任	八重樫 文子	
27 岩手県福祉総合相談センター	技術副主幹兼総合相談企画主査	阿部 和子	
28 岩手県精神保健福祉センター	主任心理判定員	長澤 裕美子	
29 岩手県環境保健研究センター	主任専門研究員	佐藤 卓	
30 岩手県盛岡保健所	所長	小野寺 勲	
31 岩手県盛岡保健所(保健福祉環境部)	次長	工藤 竹昭	
32 保健福祉環境部 健康推進課	健康推進課長	佐々木 ナホ子	
33 //	母子保健係係長	鈴木 久子	
34 //	主任保健師	松川 久美子	
35 //	主事	日向 磨机子	

病院経営への株式会社参入議論に思う

坂井 博毅

医療費削減のために医療改革が必要であることはだれしもが認めることである。しかし世界最良といわれる我が国の医療保険制度を、失敗し世界最悪と言われるアメリカの医療保険制度を見習い、市場原理に基づく医療経営への株式会社参入と言う馬鹿げた議論がまかり通り、法制化し改悪しようなどばかげた発想はない。イラク戦争の日米同盟論よろしく、医療保険制度の現実にけっして取り入れるべきものではない。

日本はアメリカの轍を踏んではならない。われわれ医師自身や医師会の自己改革は勿論必要であり反省点が多くあると思う。しかし病院経営への株式会社参入議論に至っては言語同断である。日本医師会は医療のなんたるかを知らない医療音痴の政治家諸子に、アメリカの株式会社医療の影の実情を示し、本来あるべき医療行政の理想像を理解させる義務があると思う。医師の生活を守るという低次元の議論での反対ではなく、医療の専門職として、政治家や社会の人々に教育しなければならないと思う。党利党略や選挙目当ての医療改革で迷惑するのは国民である。ボストン在住でアメリカ医療にたずさわる李 啓充医師は「アメリカ医療の光と影」と題して週間医学界新聞(医学書院)に長期に渡り連載された。アメリカ医療の光の部分もさることながら、米国第2の病院チーン、テネット社が引き起こした医療不正事件を例に、営利を第一目的とする医療株式会社がどれ程医療を歪めてきたかを力説された。医療の株式会社参入賛成論者の短絡的意見は、市場原理に従い経営のプロが病院を運営すれば、合理化され医療サービスの効率化と、より良いサービスがより安く提供されると主張している。一見正論に思えるがこれがとんだ食わせ物だ。それを実証したのが、例のテネット社が引き起こした医療不正事

件であり、また経理のプロ達が経営する多くの営利病院の医療の質が落ち、しかも価格も高いことがアメリカ国内で実証された現実である。どんな理想を掲げても、収益を上げ、配当をし、株価を上げなければその株式会社は破綻するのである。医療の善し悪しの前に経済性が優先されるのが実体である。今日の日本の株式市場をみればお解りの通り、株価の値上げのためにはどんなことでも平氣でやる。モラルなんかあつてなしが如くである。こんなことが医療の現場で起こったと仮定しただけでも寒気がする。

さらに営利獲得競争が起こった場合、懸念されることは「バンパイア効果」であると李 啓充先生は述べている。「バンパイア効果」とはある地域に「サービスの質を落としてでも、価格を下げてマージンを追求する」悪質な医療企業が参入した場合、「マージンよりもサービスの質を追求する良質な企業が、悪質な企業の経営手法をまねないと生き残れない」という現象を言い、良心的な医療を追求する病院はその地域から消えてしまうという現象で、これを氏は危惧をされている。正に正論であると思う。

こうしたアメリカの医療の荒廃した影の部分を見ると、株式会社医療による合理的な医療が競争原理が働いて、自動的に良質な医療がなされると言う短絡的な論法は詭弁であり、大変危険な発想であると思う。

「良質な医療への改革」、「患者様の権利を守るために何をすべきか」のための医療改革であるべきにもかかわらず、合理性だけを追求し、すでにアメリカで失敗している「株式会社による病院経営」を政策議論している政治家諸子は非常識と言うよりは無知識と言わなければならない。無知識な者には知識を授けなければならない。その責務は医師会員一人一人にあると思う。



ブロンズ像／Kate Thomson

編集後記

- イラク戦争が突入し、北朝鮮の不穏な動き、長引く経済不況、加えて、医療保険制度の改革(改悪)など厳しい社会環境の中、岩手郡医報76号がようやく編集されました。今回も発行が大変遅れお詫び致します。
- 今回の表紙と裏表紙は岩手町在住の石彫作家、Kate Thomsonさんの作品の写真を載せさせていただきました。Kate Thomsonさんは日本人の石彫作家片桐宏典氏と結婚され、岩手町の浮島に住まれ、二人で浮島彫刻を開かれ、毎年日本各地や海外で作家活動や個展を開かれておられる国際的な石彫作家です。岩手町にお出での際は是非立ち寄って鑑賞して下さい。
- 総会や大きな医師会事業がないと会報が発行出来ず責任を感じています。原稿をよろしくお願いします。

岩手郡医報：No.76／2003年4月11日発行
編集・発行：岩手郡医師会
印 刷：(株)熊谷印刷